

# がん患者に加味帰脾湯を使用し QOLの改善がみられた症例



福永 智栄 先生

日本赤十字社 姫路赤十字病院 緩和ケア内科

1998年 三重大学医学部 卒業  
1999年 大阪府立母子保健医療センター 麻酔科レジデント  
2004年 兵庫医科大学 皮膚科 臨床助手  
2006年 兵庫医科大学 疼痛制御科学・ペインクリニック部 助教  
2014年 姫路赤十字病院 緩和ケア内科 副部長

## はじめに

がん患者の苦痛は全人的な苦痛と言われるが、西洋医学的アプローチでは難治な場合も多い。しかし、漢方治療を取り入れることで苦痛が軽減し、QOLの改善が得られることから、緩和領域において漢方薬の果たす役割は大きいと考えている。

そこで、がん患者に加味帰脾湯を使用し、QOLの改善がみられた症例を紹介する。

## がんに伴うさまざまな症状

がん治療の進歩により患者の生存率は向上しているが、同時に長期生存のがん患者は全身倦怠感や痛み、嘔気・嘔吐など非常に多様な症状を呈する(図1)。

中でもがん患者の7割は全身倦怠感を有しているとの報告があるにも関わらず、実際にはなかなか医療者に訴えないのが現状である。また、がん治療が奏効しても症状は残存し、長年苦しんでいる「がんサバイバー(cancer survivors)」も多く存在している。

## 症 例

症 例：39歳 男性。

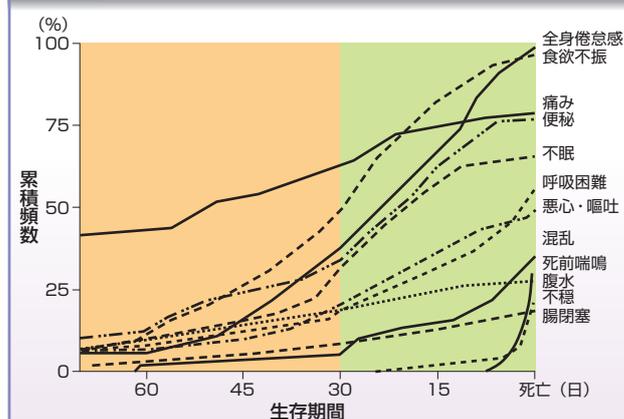
主 訴：胸背部の痛み、しびれ。

現病歴：図2に示す。

現 症：補中益気湯の処方後は、「少し体力がましになった」といわれるも、夜があまり眠れない、ふらふらする、驚きやすい、との訴えがあった。東洋医学的所見から、心脾両虚と弁証した(図3)。

経 過：受診時も座ることが難しく、ベッドで横になっての診察であった。不眠があること、驚きやすい症状がみられることから、補中益気湯からクラシエ加味帰脾湯7.5g/日(分2)に変更した。1ヵ月後の受診時には笑顔で診察室に入室され、不眠が改善し日中の眠気もなくなって身体が楽になったといわれた。夕方には倦怠感が出現するも日常生活に支障はない。また、以前からあった耳閉感の改善もみられ、継続加療としている。

図1 がんに伴うさまざまな症状



恒藤 暁 ほか：ターミナルケア 6(6)：482-490：1996

### 図2 現病歴

- X-4年5月 頭痛、眼球の突出感、複視、耳鳴などの症状出現、精査にて**咽頭がん**と診断され、IMRT (70Gy/35Fr) と化学療法 (CDDP80mg/m<sup>2</sup>×3コース) を施行。
- X-3年5月頃 **右頭頂部や顔面にビリビリした痛みの訴え**あり。照射部位が頭蓋底の影響と考えられ、カルバマゼピン等を処方されるも効果なし。
- X-2年11月 当院初診。トラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合錠が処方されたが効果なく自己中断され、痛みの治療はいったん終了となった。
- X年5月 肺の転移が見つかり、開胸にて摘出術施行。創部痛も続いていたため、術後よりトラマドール塩酸塩・アセトアミノフェン配合錠、プレガバリンが再開となった。  
**倦怠感や食欲低下、気力の低下**があり、**補中益気湯**が処方されていた。

**ESASによる評価**：当院では、患者の自覚的な症状を評価する際に、ESAS (Edmonton symptom assessment system) を用いている (図4)。本症例は、加味帰脾湯の服用前は傾眠と食欲低下が高値であり、全体でも高値であったが、加味帰脾湯服用1ヵ月後では、全体的に改善傾向がみられている。

### 考察

加味帰脾湯の出典は「済生全書」であり、心脾虚で「貧血動悸、不眠、健忘」などに、肝火旺の症状である「のぼせ、ほてり、息苦しさ」を伴うものに用いられる。本症例は、患者の治療経過が長いことから、気血両虚が存在したと考えられる。

症状としては、倦怠や食欲不振などから脾気虚を考えた。また、ふらつき、不眠などの心血虚症状が認められた。さらに、驚きやすいという症状は、ストレスにより心悸亢進がみられることで起こる症状であり、肝火旺であることから加味帰脾湯を選択した。同時に耳閉感の改善も認められた。

### Discussion

**木村**：ご提示いただいた患者さんは、経過が長い気血両虚と考察されていましたが、十全大補湯などの処方とどのように鑑別されていますか。

**福永**：緩和領域では補剤を用いるケースが多いのですが、この患者さんは精神症状がメインに出現していたため、酸棗仁や遠志が配合されているなど、精神症状を加味して加味帰脾湯を選択しました。

**木村**：「驚きやすい」という症状から、柴胡加竜骨牡蛎湯なども鑑別処方に入るとはと思いますが、実際の臨床で「驚きやすい」をどのようにとらえていますか。

**福永**：「驚きやすい」を確認する際のポイントの一つは、短脈であることです。この脈がある方には「物事にびくっとしやすいですか」とお聞きします。

### 図3 現症

#### 身体所見

身長：172cm 体重：47kg BMI：15.6

#### 血液検査値

白血球数：4200/μL、ヘモグロビン値：12.6g/dL  
血小板数：21.3×10<sup>4</sup>/μL、CEA：4.8ng/mL、SCC抗原：1.3ng/mL

#### 東洋医学的所見

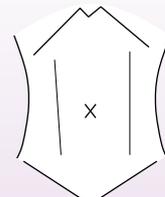
**自覚症状**：補中益気湯処方後は少し体力がまし。  
**夜があまり眠れない。ふらふらする。**  
**驚きやすい。**

**脈象**：沈、細、短

**舌象**：淡白

**腹象**：腹力中等度 腹皮拘急軽度

**弁証**：心脾両虚



### 図4 ESASによる評価 —加味帰脾湯服用前後の比較—

痛みなし	0 1 ②③ 4 5 6 7 8 9 10 最悪の痛み
倦怠感なし	0 1 2 ③④ 5 6 7 8 9 10 最悪の倦怠感
傾眠なし	0 1 2 ③④ ⑤ 6 7 8 9 10 最も強い傾眠
吐き気なし	0 ①② 3 4 5 6 7 8 9 10 最悪の吐き気
食欲良好	0 1 2 3 4 5 6 ⑦ 8 9 10 最低の食欲
息苦しさなし	0 1 ② 3 4 5 6 7 8 9 10 最悪の息苦しさ
うつ傾向なし	0 1 ② 3 4 5 6 7 8 9 10 非常に強いうつ傾向 (うつ=気持ちのつらさ)
不安なし	0 ① 2 3 4 5 6 7 8 9 10 非常に強い不安 (不安=心配な気持ち)
とても良い感じ	0 1 2 3 4 5 ⑥⑦ 8 9 10 全く良くない感じ (全体としてどう感じているか)

○ = 初診時   ○ = 1ヵ月後

### まとめ

加味帰脾湯は、貧血 (特に血小板減少性紫斑病など) や不眠、神経症のほか慢性痛、線維筋痛症、耳管開放症などにも有効であることが報告されている。補剤の中で気血両虚かつ精神症状のある本症例に適応と考えた。